

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (19)

久 居 宣 夫*

Notes on Newly or Rarely Observed Animal Species
in the Institute for Nature Study (19)

Nobuo Hisai*

は じ め に

今回は、2008年1月から2008年12月までに新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 2008)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r: “稀, または (r): “古い記録はあるが、現在未確認の種”とされている全ての種を対象にしたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の種も対象とした。日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日を、以下目撃または捕獲地点(図1参照)および目撃者、捕獲者名をそれぞれ示し、氏名のない場合は筆者の記録によるものを示す。なお、蝶類についての詳細は別途報文(久居, 2009)を参照していただきたい。

本報告をまとめるにあたって、同定をしていただいた国立科学博物館動物研究部の友国雅章博士、同大和田守博士、ミナミトゲヘリカメムシの関東地方における発生記録と文献についてご教示いただいた大野正男東洋大学名誉教授、また、日頃より貴重な情報を提供してくださった下記の方々に感謝の意を表する次第である(敬称略, 50音順)。

飯田晋一郎(SI), 大澤陽一郎(YO), 奥津 励(RO), 神森芳行(YK), 唐沢孝一(KOK), 桑原香弥美(KK), 須田研司(KS), 津野典子(NT), 福田 光(MIF), 宮澤 昇(NM), 村松やす子(YM), 矢野 亮(MY), 吉井三恵子(MIY), 吉埜孝広(TY), 吉野由美子(YY)

1. 追 録

節足動物門 Arthropoda

昆虫綱 Insecta

ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao (カメムシ目ヘリカメムシ科)

2008. 7. 15 教育管理棟内 1ex RO 友国雅章氏同定

3齢幼虫と考えられる個体が捕獲された。本来は沖縄諸島・先島諸島などに生息する南方系の種であるが、1970年代半ばごろに鹿児島県に発生し、これまでに大分、高知、愛媛、和歌山、三重などの

*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science, Tokyo

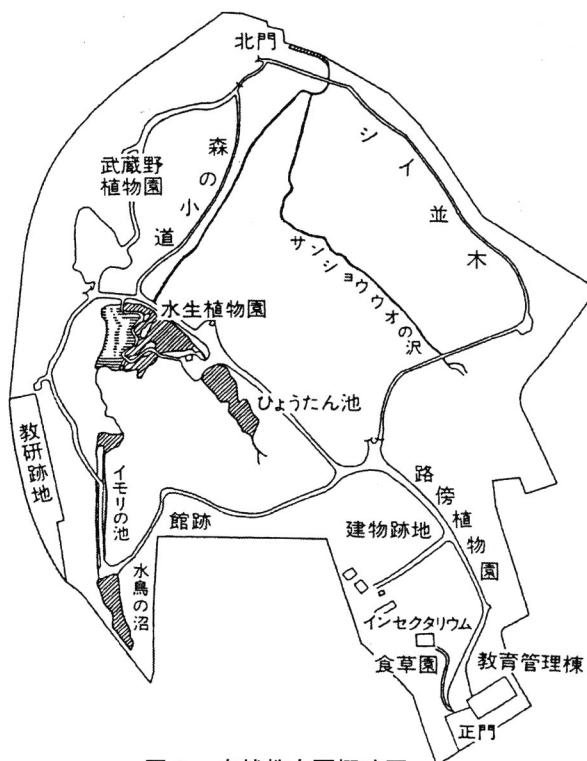


図 1. 自然教育園概略図

各県で記録されている (安永ほか, 1993)。最近では関東地方へ侵入し神奈川県茅ヶ崎市 (岸・岸, 2005), 東京都多摩市 (鈴木, 2007), 千葉県白井市 (雨宮, 2007) などでも記録されている。

寄主植物はタブノキ・シロダモ・クスノキ・ヤブニッケイなどクスノキ科の植物である。今回、本種が見つかった教育管理棟前にはタブノキが生育しており、ここで発生した個体が管理棟内に入り込んだものと考えられる。

ムネアカアワフキ *Hindoloides bipunctata* Haupt (カメムシ目トゲアワフキムシ科) (図 2)

2008.5.5 武蔵野植物園 1♀ SI

園内で撮影された写真によって本種と同定された。とくに稀な種ではないが、近隣地域では埼玉県で記録されているものの (埼玉昆虫談話会, 1999), 千葉県 (千葉県史料研究財団, 2003) や皇居では記録されていない (友国ほか, 2000)。本種の雄は小盾板が赤で、ほかの部分は一様に黒色であるが、雌は前胸背も暗赤色で雄と色彩が異なる (林, 2008)。本州・四国・九州に分布するがあまり多くはなく、サクラに寄主し、幼虫はその枝に石灰質の巣を作る (江崎, 1950)。

ムーアシロホシテントウ *Eocaria muiri* Timberlake (コウチュウ目テントウムシ科)

2008.6.7 イモリの池付近 1ex

普通種であるがこれまでに記録されていなかった。東京では皇居 (野村ほか, 2000) のほか赤坂御用地, 常盤松御用邸 (野村・平野, 2005) でもふつうに見られる。国内では北海道から奄美大島まで

広く分布する。平地から山地まで生息し、朽木や樹皮下などで成虫越冬する（初宿，1999）。

ヒメクロホウジャク *Macroglossum bombylans* Boisduval (チョウ目スズメガ科) (図3)

2008.10.23 水生植物園 1ex SI

園内で撮影された写真によって本種と同定された。同属のホシホウジャクは秋に園内のタイアザミなどに訪花するのがよく見られるが、本種はこれまでに記録されていなかった。東京の大型緑地である皇居や赤坂御用地などでも見つかっていない（大和田ほか 2005, 2006）。食餌植物はアカネ科のヘクソカズラやアカネなどで、園内にふつうに生育する。生活環は明らかでないが、年に2-3回発生すると考えられている（井上，1982；中臣，1987）。国内では北海道から琉球列島まで分布する。

リュウキュウキノカワガ *Risoba prominens* Moore (チョウ目ヤガ科)

2008.7.31 教育管理棟内 1ex 大和田守氏同定

教育管理棟内の展示室で成虫が得られた。食餌植物はヤマモモとされており（杉，1982），1980年に教育管理棟が竣工されたおりに管理棟前にヤマモモが植栽されたことから、このヤマモモに幼虫などが付いてきたものが同地で発生していたものか、あるいは最近になって近隣地域から侵入したと考えられる。

本来は南方系の種で、御蔵島や屋久島、沖縄本島、西表島などで記録され、関東南部が北限である（杉，1982）。東京では皇居や赤坂御用地、常盤松御用邸で記録されており（大和田ほか，2006），近隣では埼玉県（埼玉昆虫談話会，1999）や千葉県（千葉県史料研究財団，2003）などでも記録されている。

脊椎動物門 Vertebrata

哺乳綱 Mammalia

? ハクビシン *Paguma larvata* (Hamilton-Smith) (ネコ目ジャコウネコ科)

2008.4 YK et YO

本種は4月ごろから本園職員や入園者によって稀に目撃されているもので、写真などによる確認はされていないが記録しておく。

本種は皇居でも確実に生息していると考えられ（Endo et al., 2000），東京の市部に最近上記の哺乳類がしばしば出没するといわれている（例えば，2006年11月29日付朝日新聞朝刊の記事「ハクビシンなど目撃情報急増」）。また，2008年6月には，東京都港区役所の職員から“区民からのハクビシンやタヌキの目撃情報がたびたび寄せられ，その駆除法についての相談を受けているが，自然教育園にはこれらが生息しているか”との問い合わせが筆者にあったことなどから，当園にも隣接地域から侵入した可能性は十分にある。

2. 稀種の記録

(1) 昆虫類

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys (トンボ目アオイトトンボ科) (図4)

2008.10.9 水生植物園 SI; 10.29 水生植物園東側湿地 1♂; 10.30 水生植物園 1♂ SI

1970年代から2000年ころまではやや少ないが比較的ふつうに見られた(頼, 1978; 須田, 2002)が, 最近やや減少しつつある。雌は池沼の水面に張り出した木の枝の樹皮下に産卵する習性があり, 本種の発生地である水生植物園では, 水ぎわに生育するこのような樹木が若干少なくなったことにもよるのかもしれない。皇居をはじめ都区内にある緑地では比較的多く生息している(斉藤ほか, 2005)。国内での分布は北海道から九州で, 佐渡島や隠岐島などの離島にも生息する。

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* Schmidt (トンボ目トンボ科) (図5)

2008. 6. 1 水生植物園 KOK

本種は「国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱」(文部省国立自然教育園, 1952: 以下「昆虫目録」と略す)に記載されていないトンボの一種で, 本園では1970年代半ばに稀に記録されている(頼, 1978, 1981)。しかし, 1998年から2000年に行った調査では見つからず(須田, 2002), 近年全く記録が途絶えていた種である。日本固有亜種で北海道から九州まで分布し, 平地や丘陵地の挺水植物が多い池沼などに生息する(浜田・井上, 1985)。都区内の緑地でもきわめて稀な種で, 皇居では記録されている(斉藤ほか, 2006)が, 赤坂御用地では記録されていない(斉藤ほか, 2005)。

ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus* (Fabricius) (トンボ目サナエトンボ科) (図6)

2008. 8. 22 水生植物園 lex SI

本園では稀に見られる(久居, 2004, 2008)。

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys) (トンボ目ヤンマ科) (図7)

2008. 2. 21 武蔵野植物園 SI

本園での初記録は2001年で(久居, 2004), その後は稀に見られる(久居, 2007, 2008)。

アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* (Dallas) (カメムシ目カメムシ科)

2008. 7. 10 水生植物園 lex

水生植物園に生育するノダケの葉上にいた個体が目撃された。

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* (Signoret) (カメムシ目サシガメ科) (図8)

2008. 10. 23 水生植物園 SI

ソメイヨシノの樹幹のくぼみに数個体の幼虫が潜んでいたが, 約1週間後には見られなくなった。本園での初記録は2006年で(久居, 2007), その後は毎年数は少ないが成虫, 幼虫とも見られる。

クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker) (カメムシ目セミ科)

2008. 8. 2 教育管理棟付近 KK; 8. 8 正門前; 8. 30 正門前 KK; 8. 31 正門前 KK; 9. 2 水生植物園

ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* (Klug) (チョウ目アゲハチョウ科)

2008. 5. 15 正門前 1♂ KS

キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C.et R.Felder (チョウ目アゲハチョウ科)

2008.4.29 水生植物園 1ex; 6.8 水生植物園 終齢幼虫 2exs; 6.17 水生植物園 終齢幼虫 1ex, 蛹 1ex; 7.10水生植物園 2齢幼虫 2exs; 9.26 水生植物園 4齢幼虫 1ex

ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* von Siebold (チョウ目アゲハチョウ科)

2008.5.16 正門前 2♀, イモリの池 1♂; 5.23 正門前 1♂ KS; 5.27 1ex SI; 6.4 正門前 1♀; 7.9 正門前1♂; 7.10 水生植物園 1♂ MIY; 7.25 1ex SI; 7.30 食草園 1♂; 8.6 1ex SI; 8.27食草園 1♂; 9.3 正門前1♂

モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* Butler (チョウ目アゲハチョウ科)

2008.8.30 路傍植物園 1ex;

オナガアゲハ *Papilio macilentus* Janson (チョウ目アゲハチョウ科)

2008.7.29 路傍植物園 1ex SI

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler (チョウ目シロチョウ科)

2008.3.26 建物跡地 1♂; 4.2 水生植物園 1♂; 4.6 SI; 4.9 水生植物園, 水生植物園東側湿地, 食草園; 4.16 建物跡地 2♂1♀, 水生植物園 7♂3♀, 水生植物園東側湿地 7♂2♀, 教研跡地 1♂; 4.23 食草園 1♀, 水生植物園 2exs, 武蔵野植物園 1♂; 4.27 SI; 4.29 食草園 1♂, 水生植物園 1♂

スジグロシロチョウ *Pieris melete* (Ménétrières) (チョウ目シロチョウ科)

2008.6.8 イモリの池 1ex; 6.10 正門前 1ex; 6.17 1ex SI; 7.2 食草園 1ex; 7.4 正門前 1♀; 7.11 1ex SI; 7.17 正門前 1ex, 食草園 1ex; 7.21 正門前 1ex, 建物跡地 1ex; 7.24 正門前 1ex; 7.25 1ex SI; 7.27 1ex SI; 8.12 1ex SI; 8.13 正門前 1ex, 食草園 1ex; 8.27 食草園 1ex; 9.12 食草園 1ex; 9.17 1ex SI; 9.20 1ex SI; 9.27 正門前 1ex

モンキチョウ *Colias erate poliographus* Motschulsky (チョウ目シロチョウ科)

2008.6.19 水生植物園 1♀; 8.29 水生植物園 1ex KK

ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* de Nicéville (チョウ目シジミチョウ科)

2008.1.4 武蔵野植物園 1♀ R0; 3.26 正門前 1♀, 教研跡地 1♂; 4.6 1ex SI; 5.8 水生植物園1♂; 6.14 1ex SI; 7.20 1ex SI; 8.2 1ex SI; 9.9 1ex SI; 9.26 1ex SI; 9.27 武蔵野植物園 1♀; 10.3 食草園 1♂; 10.5 食草園 1♂; 10.13 水生植物園 2♂; 10.16 正門前 1ex, 食草園 2exs, 水生植物園 1♀; 10.17 1ex SI; 10.19 1ex SI; 10.21 1ex SI; 10.22 1ex SI; 10.28 1ex SI; 11.1 1ex SI; 11.13 1ex SI; 12.11 1ex SI

ムラサキシジミ *Narathura japonica* (Murray) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.1.6 1ex SI; 3.9 1ex SI; 4.23 路傍植物園 1ex; 5.28 1ex SI; 7.9 1ex SI; 7.24 路傍植物

園 1ex; 8.5 食草園 1ex; 8.8 1ex SI; 8.13 正門前 1ex, 食草園 1ex; 8.15 武蔵野植物園 1ex KK;
8.28 食草園 2exs; 9.3 1ex SI; 9.5 食草園 1ex; 9.12 1ex SI; 9.25 1ex SI; 9.26 水鳥の沼 1ex; 9.27
正門前 1ex, 食草園 1ex, 水生植物園 2exs; 10.5 路傍植物園 1ex; 10.9 1ex SI; 10.12 1ex SI; 10.13
1ex SI; 10.15 1ex SI; 10.16 食草園 1ex, 水生植物園 1ex, 水鳥の沼 1ex; 10.17 1ex SI; 10.18 1ex
SI; 10.19 1ex SI; 10.21 1ex SI; 10.23 水鳥の沼 1♀; 10.28 食草園 1ex; 11.1 イモリの池付近 1
♂ SI; 11.2 路傍植物園 1♂; 11.6 水生植物園 2exs; 11.13 1ex SI; 11.18 1ex SI; 11.19 1ex SI;
11.26 1ex SI; 12.3 1ex SI; 12.18 1ex SI

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* (Butler) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.10.12 水鳥の沼 1ex SI; 10.17 水鳥の沼 1ex SI; 10.30 水生植物園 1♀ Y0; 11.18 イモリ
の池付近 1♀ SI; 11.21 正門前 1♂ YK

アカシジミ *Japonica lutea* (Hewitson) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.5.23 水生植物園 1ex SI, YK, MF et NM; 6.25 水生植物園 1ex

ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* (Hewitson) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.6.15 イモリの池 1ex Y0

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (Bremer) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.5.28 建物跡地 1ex; 6.4 水鳥の沼 1ex SI; 6.7 SI; 6.8 水鳥の沼 1ex

オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.7.1 水生植物園 1ex MIF et SI

トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.3.22 武蔵野植物園 1ex; 3.25 路傍植物園 1ex; 4.2 路傍植物園 1ex; 4.4 1ex SI; 4.12
1ex SI; 6.17 イモリの池 1ex SI, 武蔵野植物園 1ex; 6.19 イモリの池 2exs; 7.2 武蔵野植物園 1ex;
7.11 1ex SI

ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura)

2008.7.9 1ex SI

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Fabricius) (チョウ目シジミチョウ科)

2008.10.3 水生植物園 2exs; 10.7 水生植物園 1ex SI; 10.13 水生植物園 1ex SI; 10.11 水生植
物園 1ex; 10.13 水生植物園 1ex

テングチョウ *Libythea lepita celtoides* Fruhstorfer (チョウ目テングチョウ科)

2008.7.5 1ex SI; 7.23 武蔵野植物園 1ex YY

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* (Moore) (チョウ目マダラチョウ科)

2008.5.27 路傍植物園 2exs KS; 8.22 水生植物園 1ex SI; 9.17 1ex SI; 9.18 路傍植物園 1ex RO;
9.26 正門前 1ex, イモリの池 1ex; 9.27 イモリの池 1ex; 10.3 路傍植物園 3exs KK (内1個体は標
識付), 武蔵野植物園 1ex; 10.5 路傍植物園 1ex; 10.7 1ex SI; 10.9 イモリの池 1ex SI; 10.10 1ex
SI; 10.18 1ex SI; 10.23 1ex SI

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.8.30 水生植物園 1ex SI; 9.2 水生植物園 1ex; 10.28 水生植物園 1ex

アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.9.27 建物跡地 1ex; 10.28 1ex SI

ルリタテハ *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.7.19 路傍植物園 1ex (幼虫) KK; 7.31 1ex SI; 8.15 1ex SI; 10.5 1ex SI

オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana* (Motschulsky) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.9.17 SI; 9.25 水鳥の沼 3exs SI; 9.26 水生植物園 1ex, 水鳥の沼 1ex SI; 10.10 SI; 10.12
水生植物園 1ex SI

ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* Fruhstorfer

2008.9.10 武蔵野植物園 1ex SI; 9.17 1ex SI; 10.12 1ex SI

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.5.6 SI; 5.8 正門前 1♂1♀; 5.15 SI; 5.16 水生植物園 1♂; 5.18 SI; 5.21 水生植物園1
♂, 食草園 1♂; 5.28 正門前 1♂, 水鳥の沼 1♂; 6.15 正門前 1♀; 7.4 正門前 1♂; 7.5 SI; 7.9
正門前 1ex; 7.13 SI; 7.23 SI; 7.24 正門前 1♀, 水生植物園 1♂; 7.30 水生植物園 1♂; 8.5 正
門前 1♂; 8.9 SI; 8.12 1♀ SI; 8.13 食草園 1♀, 水生植物園 1♂; 8.15 正門前 1♀; 8.19 SI; 8.21
SI; 8.27食草園 1♀, 水生植物園 1♂; 8.30 1♀ SI; 9.2 SI; 9.10 SI; 9.12 正門前1♂, 食草園 1
♂, 水生植物園 1♂; 9.17 SI; 9.25 SI; 9.26 SI; 9.27 水生植物園 1♂1♀; 10.2 食草園 1♂, 水
生植物園 1♂2♀, 武蔵野植物園 1♂; 10.3 SI; 10.7 SI; 10.9 SI; 10.12 SI; 10.13 SI; 10.15 SI;
10.16 水生植物園 2♂1♀; 10.21 SI; 10.22 SI; 10.28 SI; 11.1 SI; 11.5 SI; 11.13 SI; 11.18 SI

コミスジ *Neptis sappho intermedia* W.B.Pryer (チョウ目タテハチョウ科)

2008.7.15 路傍植物園 1ex MIF; 8.19 水生植物園 1ex SI

アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus) (チョウ目タテハチョウ科)

2008.8.8 水生植物園 TY; 9.9 武蔵野植物園 1ex SI; 9.12 水生植物園 1ex MY; 9.15 武蔵野植
物園 1ex SI; 9.19 武蔵野植物園 1ex SI

コムラサキ *Apatura metis substituta* Butler (チョウ目タテハチョウ科)

2008.5.23 水生植物園 1♀ SI, YK et NM

クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura (チョウ目ジャノメチョウ科)

2008.4.19 正門前 1ex MY; 8.16 食草園 1ex MY; 8.24 水生植物園東側湿地 1ex; 10.19 水生植物園東側湿地 1♀; 11.3 正門前 1♀ NM et SI

キマダラセセリ *Potanthus flavus* (Murray) (チョウ目セセリチョウ科)

2008.5.9 1ex SI; 6.10 水生植物園 1ex YM; 6.11 1ex SI; 6.14 1ex SI; 6.19 水生植物園 1ex; 7.1 1ex SI; 8.12 1ex SI; 8.15 水生植物園 1ex; 8.21 1ex SI; 8.27 水生植物園 1ex; 9.5 食草園 1ex; 10.23 1ex SI

セミヤドリガ *Epipomponia nawai* (Dyar) (チョウ目セミヤドリガ科)

2008.9.5 正門前 1ex NT

今回は正門前で樹木の枝から糸にぶら下がった終齢幼虫が見つかった。この個体は蛹化のために寄主から離脱したものと考えられる。本種は2006年に初めて記録され(久居, 2007), 本園では3例目の記録となる。

オオミノガ *Eumeta variegata* (Snellen) (チョウ目ミノガ科)

2008.2.17 路傍植物園

園内の通称「物語の松」付近に本種の幼虫のミノが見られた。

ウンモンズズメ *Callambulyx tatarinovii* (Bremer et Grey) (チョウ目ズズメガ科)

2008.8.28 正門前 KK

正門前で終齢幼虫が見つかった。最近毎年のように見られ(久居, 2007, 2008), 同所に生育するケヤキで発生していると考えられる。

キイロスズメ *Theretra nessus* (Drury) (チョウ目ズズメガ科)

2008.9.12 三叉路付近 KK

三叉路付近に生育するヤマノイモに付いていた終齢幼虫が見られた。2007年には成虫も記録されている(久居, 2008)。

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (Faldermann) (コウチュウ目コガネムシ科)

2008.9.5 水生植物園 YO

ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E.Saunders (コウチュウ目タマムシ科) (図9)

2008.6.1 武蔵野植物園 SI

園内で撮影された写真によって本種と同定された。「昆虫目録」には記載されているが、その後は

記録が途絶えていた種で、本園ではきわめて稀である。成虫は5-8月、平地から山間部に出現する。幼虫は広食性でモミやウメ・ビワ・カシ類など種々の樹木の樹皮下を食べる（大桃, 2007）ほか、ときにはマツ科の針葉樹の枯材や枯枝にも付く（黒澤, 1985）。本種は皇居でも記録されている（野村ほか, 2000）。国内での分布は離島を含めて北海道から九州である。



図2. ムネアカアワフキ

(2008. 5. 5 武蔵野植物園 飯田晋一郎撮影)



図3. ヒメクロホウジャク

(2008. 10. 23 水生植物園 飯田晋一郎撮影)

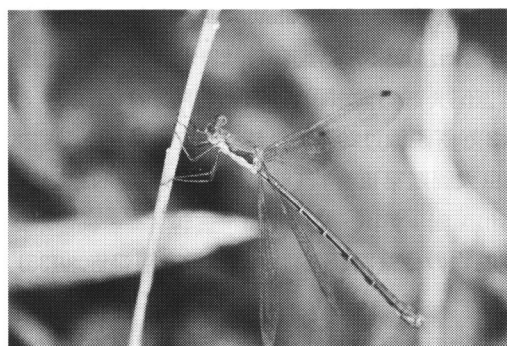


図4. オオアオイトトンボ

(2008. 10. 9 水生植物園 飯田晋一郎撮影)

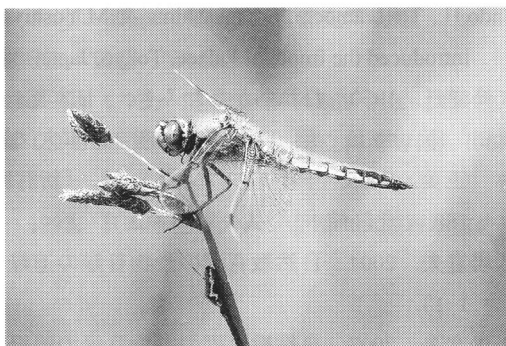


図5. ヨツボシトンボ

(2008. 6. 1 水生植物園 唐沢孝一撮影)

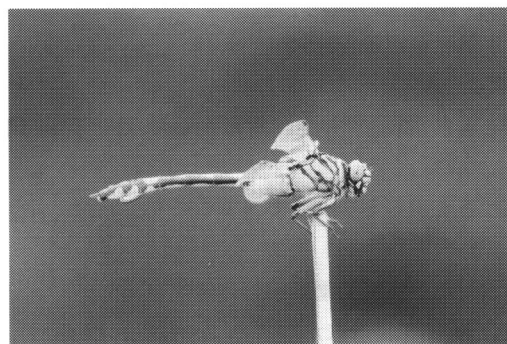


図6. ウチワヤンマ

(2008. 8. 22 水生植物園 飯田晋一郎撮影)

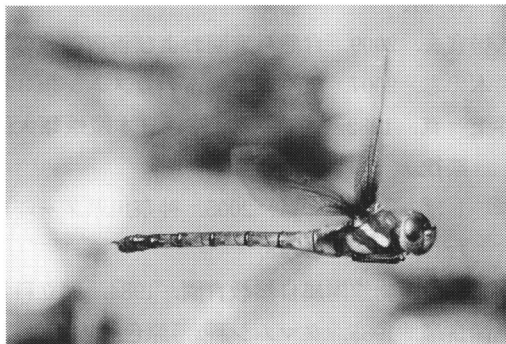


図7. マルタンヤンマ

(2008. 7. 21 武蔵野植物園 飯田晋一郎撮影)

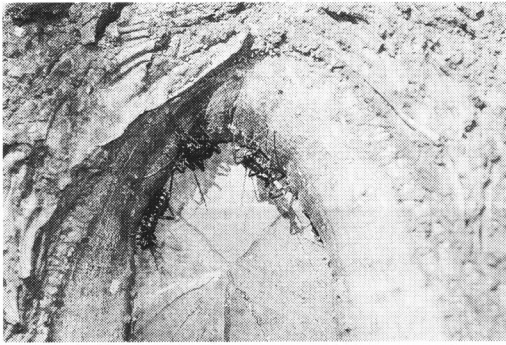


図 8. ヨコヅナサシガメ

(2008. 10. 28 水生植物園 飯田晋一郎撮影)

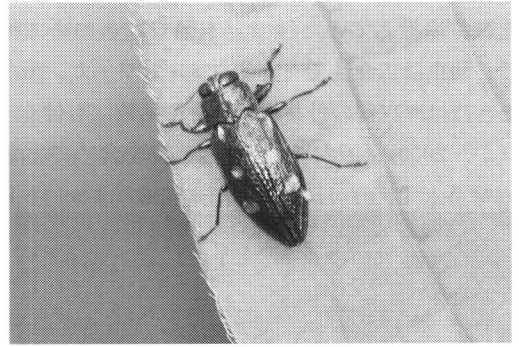


図 9. ムツボシタムシ

(2008. 6. 1 武蔵野植物園 飯田晋一郎撮影)

引用文献

- 雨宮将人. 2007. ミナミトゲヘリカメムシのモクレンへの寄生. かめむしニュース, (37):10.
- 千葉県史料研究財団 (編). 2003. 千葉県産動物総目録. 千葉県の自然誌資料, 378pp. 千葉県.
- Endo, H., T. Kuramochi, S. Kawashima & M. Yoshiyuki. 2000. On the masked palm civet and the raccoon dog introduced to the Imperial Palace, Tokyo, Japan. Mem. Nat. Sci. Mus., Tokyo, (35):29-33.
- 江崎悌三. 1950. むねあかあわふき. 「日本昆虫図鑑」(石井 悌ほか編), 271. 北隆館.
- 浜田 康・井上 清. 1985. 日本産トンボ大図鑑, 第2巻解説編:129-291. 講談社.
- 林 正美. 2008. トゲアワフキムシ科. 「新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻」(平嶋義宏・森本 桂監修), 186. 北隆館.
- 久居宣夫. 2004. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(14). 自然教育園報告, (35):1-13.
- 久居宣夫. 2007. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(17). 自然教育園報告, (38):1-18.
- 久居宣夫. 2008. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録(18). 自然教育園報告, (39):47-61.
- 久居宣夫. 2009. 自然教育園および新宿御苑の蝶類. 自然教育園報告, (40):9-45.
- 桧木忠志. 2007. 東京都多摩市のカメムシ類3種. かめむしニュース, (37):11.
- 井上 寛. 1982. スズメガ科. 「日本産蛾類大図鑑第1巻解説編」(井上 寛ほか著), 590-604. 講談社.
- 岸 しげみ・岸 一弘. 2005. 神奈川県茅ヶ崎市におけるミナミトゲヘリカメムシの発生記録. 月刊むし, (409):47-48.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.
- 黒澤良彦. 1985. タマムシ科. 「原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)」(黒澤良彦ほか編著), 2-37. 保育社.
- 文部省国立自然教育園. 1952. 国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱. 国立自然教育園基礎資料, (1):1-42. 文部省国立自然教育園.

- 中臣謙太郎. 1987. スズメガ科. 「日本産蛾類生態図鑑」(杉 繁郎編), 126-134. 講談社.
- 野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明. 2000. 皇居の甲虫相. 国立科博専報, (36): 185-255.
- 野村周平・平野幸彦. 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の甲虫相. 国立科博専報, (39): 183-223.
- 大桃定洋. 2007. タマムシ科. 「新訂原色昆虫大図鑑第Ⅱ巻」(森本 桂監修), 173-186. 北隆館.
- 大和田守・有田 豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・新津修平・慶野志保子. 2005. 赤坂御用地の鱗翅類. 国立科博専報, (39): 55-120.
- 大和田守・有田 豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・平野長男. 2006. 皇居の蛾類モニタリング調査 (2000-2005). 国立科博専報, (43): 37-136.
- 頼 惟勤. 1978. 自然教育園の蜻蛉の目撃記録. 自然教育園報告, (8): 60-71.
- 頼 惟勤. 1981. 自然教育園の蜻蛉の目撃記録 (続報). 自然教育園報告, (12): 27-29.
- 埼玉昆虫談話会. 1999. 埼玉県昆虫誌 (別巻). 278pp. 埼玉昆虫談話会.
- 斉藤洋一・大和田守・加藤俊一. 2005. 赤坂御用地のトンボ類. 国立科博専報, (39): 419-430.
- 斉藤洋一・大和田守・加藤俊一・井上繁一. 2006. 皇居のトンボ類モニタリング調査 (2001-2005). 国立科博専報, (43): 383-406.
- 初宿成彦. 1999. ミニガイド No. 16 「大阪のテントウムシ」. 39pp. 大阪市立自然史博物館.
- 須田真一. 2002. 自然教育園のトンボ類. 自然教育園報告, (34): 107-130.
- 杉 繁郎. 1982. ヤガ科. 「日本産蛾類大図鑑第1巻解説編」(井上 寛ほか著), 669-913. 講談社.
- 友国雅章・林 正美・碓井 徹. 2000. 皇居の半翅類 (腹吻群同翅類を除く). 国立科博専報, (36): 35-55.
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫. 1993. 日本原色カメムシ図鑑 (友国雅章監修). 380pp. 全国農村教育協会, 東京.